



特定非営利活動法人 山崎・谷戸の会
会報 第84号 2018年3月1日発行

本会は、鎌倉中央公園の貴重な谷戸景観と多様な動植物を保全するため、市民活動を実践していたメンバーが中心となり、行政との協働で立ち上げたものです。

谷戸塾に新しいコースを企画しました



春の気配が日ごとに感じられ、新年度谷戸塾が始まります。谷戸米の苗も、さつまいもの苗も、自前で育てるため、2月から3月にかけて準備に追われました。4月にとりかかるのが楽しみです。おいしいコースにご参加ください。

2/14 さつまいもの苗床作り

お知らせ

オリエンテーション

4/15 (日) 10:00~12:00
管理棟 2階

春の谷戸まつり

4/29(日) 10:00~14:00
野外生活体験広場(小雨決行)



お椀とお箸を
ご持参ください

新規募集

里山探検隊

農体験や谷戸の遊び、かまどで炊き出しなどをします。

小学生対象 定員 25名 全6回
通年参加 10時~13時

4/1より申し込み開始 先着順
保護者の方への説明会を
4/15(日)のオリエンテーション
に行います。

谷戸塾

保全作業、観察会、農芸体験で谷戸を学びます。
小学5年生から参加できます。



●畔跡地周辺の手入れ

1. 湿地に残された畔跡地

湿地も元はゆるやかな棚田だったようです。現在の本田を見れば分かりますが、水路に頼らない「絞り水（湧き水）」だけで潤されている区画も多かったようです。谷戸の水は大事に田んぼに使い、無駄に水路に流さなかったのでしょう。田んぼをやめた後、将来は畑などに利用できるよう、湿地を乾燥させる工夫をしているようです。谷戸の湿地を観察すると、畔を切って（意図的に壊して）水がたまらないようにした形跡が見られます。このままでは、湿地を存続させるのは難しいということです。

2. 湿地を残すには、畔跡地の手入れが必要

山崎の谷戸のような都会型（都会周辺）の里山では、生態系保全のため湿地を大事にしています。田んぼが少なくなった今、カエルやトンボなど田んぼの生きものや、カヤネズミ、野鳥などが生息する湿地を存続させたいのです。そのためには畔跡地周辺の手入れをして水辺の環境を保全することも大切です。

3. 畔跡地周辺の現状

専門家から、畔の跡地を修復して田んぼの状態に戻すよう提案されることがあります。ところが、田んぼをやめて数十年も放任されていると新たな生態系もできています。例えば、畔を切る（壊す）ことで湿地の中に水路が生じ、ホトケドジョウやオニヤンマの幼虫が生息しています。畔跡地周辺には水がしみだして沼地になりヘイケボタルの棲家になっています。田んぼとは違った水辺の生態系がいつのまにかできているのです。実際に畔の跡地を修復して水を溜めることは容易なことではありません。田んぼの跡地（湿地）に新たに生まれた環境も大事にしながら、少しずつ田んぼに近い湿地を復元したいと考えます。

4. 必要な畔跡地の手入れ

カエル（特にヒキガエル）が産卵するには水溜りが必要です。ヒキガエルが産卵に来る水溜りは毎年同じですが、放任していると埋もれてしまうので手入れが必要です。また、湿地の中でも安定して水がたまる場所は限られているので貴重です。畔の段差の低い側や、湿地と斜面の境界部にそのような場所があります。また、畔の段差が大きい場合、畔の切れ目を流れる水路の侵食作用が激しくなり湿地の乾燥化につながるため、畔の切れ目を少しふさぐことも必要でしょう。うまくいくと畔の段差の高い側が沼地のようになり、ヘイケボタルが増えることもあります。湿地の中の水路はアシなど植物の根で埋もれてくることがありますが、場合によっては植物の根を除去して水路を確保してやる必要もあるでしょう。

体験学習

ひたすら落ち葉をかいていた。山の上の方から順にかいてったので下に集めた落ち葉を運ぶのがわりと大変だった。斜面から落ち葉を落として集めはじめてからは楽だった。（教育支援教室ひだまり）

いままでがんばってきた作業を振り返っているいろいろなことをしました。いままで作ってきたお米おいしかったです！

（深沢小5・収穫祭）

私は谷戸なべ班になりました。山いもは、まずほって次にあらって切って、ほかの野菜といっしょにこみます。自分たちで作った谷戸なべがすごくおいしくて最高でした。（深沢小5・収穫祭）



谷戸往来

春の七草・どんど焼き

1/14(日)13:30～

山崎で継承されてきたどんど焼きを、1/14(日)に鎌倉市公園協会と協働にて開催し、無病息災を祈りました。七草粥と団子を谷戸で採れた米で、当会の会員が準備しました。例年好評なので頒布数を増やしましたが、すぐに完売となりました。



各班のお知らせ



 2/15 粃殻くん炭


田んぼ班

今年の冬は寒く、山沿いの田んぼは人が乗れるほどの氷に覆われました。カエルの産卵も遅れています。一方冬の作業粃殻くん炭は、やり方を工夫しながら順調に終わることができました。

農芸班

今年度最後の大役「味噌作り」も無事終了。たくわんも「さすが谷戸の味」と好評。皆さんの「美味しい」の言葉に励まされ、活力にして来年度も取り組みます。6月から「梅干し作り」が始まります。



 2/7 味噌作り

畑班

例年以上に厳しい寒さの冬でしたが、2月と3月にさつまいもの苗床作りに励みました。(表紙参照)5月にその苗を植える予定です。草取り、耕しといった畑の手入れにも力を注ぎます。

雑木林管理班

今年も1月に毎木調査(木々の成長調査)を行い、この一年で約2%、ほぼ例年通りに成長していることを確認しました。木々の成長と森の循環のバランスを図りつつ、間伐作業を行っています。

植物育成班

アシ原の手入れを引き続き行っています。手入れを続けたオギ原は、雪で倒れませんでした。ヒメオドリコソウも除去をしていますが、まだ目立ちます。こちらも続けて除去していきたいと思えます。

自然遊び班

かまどに火を起し、ごはんを炊いて谷戸汁をつくり、班活動のみなさんと一緒に食べました。・火をおこすのがむずかしかった。(小4)・ごはんをつくるコツがわかりました。(小2)

生態系保全班

アカガエルの卵塊を確認しました。少なくなっているので、何個、確認できるか心配です。オタマジャクシになっても減っていきます。カエルになるまでどのくらい守れるか試行錯誤していきます。



 2/18 里山探検隊

3月

- 4日 (日) 田 道具の手入れ ☆
 畑 道具の手入れ ☆
 雑 道具の手入れ ☆
 自 父と子の里山体験
 「竹でお椀と箸づくり」▷
 試食の日
- 7日 (水) 生 オタマジャクシの保護作業
- 11日 (日) 田 畔・水口直し
 畑 ねぎの種蒔き ❀
 雑 雑木林の除間伐 ❀
 講座「谷戸歩き」☆
- 14日 (水) 植 外来植物除去作業
- 18日 (日) 畑 さといも植え付け準備
- 21日 (水・祝) 植 新芽の観察 ❀
- 25日 (日) 畑 畑の整備
 雑 間伐材の活用 ❀
 生 ウグイスのさえずりを聞こう ❀

4月

- 1日 (日) 田 浸種・ため池まわり整備
 雑 ため池まわり整備 ❀
- 8日 (日) 田 苗床整地・畔整備
 畑 畑の整備
 雑 竹林の整備 ❀
- 11日 (水) 畑 さといもの植え付け ❀
 生 春のチョウの観察
- 14日 (土) 田 種籾蒔き
- 15日 (日) オリエンテーション
- 田 種籾蒔き ☆
 雑 斧で薪割り ☆
 講座「谷戸とは」☆
- 18日 (水) 植 田んぼの植物調査
- 22日 (日) 田 田うない ❀
 畑 畑の整備
 生 野鳥のさえずり聞く ❀
- 29日 (日) 春の谷戸まつり
- 30日 (月・祝) 田 田うない

5月

- 5日 (土・祝) 田 田うない ☆
- 6日 (日) 田 畔草刈り・苗床草取り ❀
 雑 薪作り ❀
- 9日 (水) 畑 畑の整備
 生 初夏のチョウの調査
- 12日 (土) 田 くろつけ
- 13日 (日) 田 くろつけ
 自 里山探検隊
- 20日 (日) 田 くろつけ ☆
 畑 大麦の刈り取り ❀
- 23日 (水) 植 クズの除去作業
- 26日 (土) 田 しろかき
- 27日 (日) 田 しろかき ☆
 畑 さつまいも苗植え ❀
- 30日 (水) 畑 小麦の収穫 ☆

- ☆ 谷戸塾
 ❀ 一日里山体験 (要予約)
 ▷ 会員以外の方、参加費500円

- 田：田んぼ班 畑：畑班
 雑：雑木林管理班 農：農芸班
 自：自然遊び班 生：生態系保全班
 植：植物育成班

〒247-0066 鎌倉市山崎 1667 鎌倉中央公園管理事務所内
 TEL/FAX 0467-47-1164 木曜を除く10時～16時
 ホームページ：<http://yato-yamasaki.sakura.ne.jp>
 Eメールアドレス：ya-yato@arrow.ocn.ne.jp

● 次号(会報85号)は、2018年5月に発行予定

